

部活動にはどのような問題があるか

富山 智 裕

◇ 教育課程と部活動の関係

「部活の顧問をやりなさい。残業代は出ないがね」
「部活は土日もある！平日は日没まで！超ブラッ
クな労働の命令じゃないか!!」

これはインターネットサイト「部活問題対策ブ
ロジェクト」に掲載されている管理職と教員の会
話です。このサイトで呼びかけられた「教師に部
活の顧問をする・しないの選択権を下さい」への
署名は二万八千筆を超え、文部科学省に提出され
ました。中学校の部活動に関わり、どのような問
題があるのか考えてみました。

中学校の教育活動は各校で編成される教育課程
に基づきます。教育課程は学校の教育目標を具現
化するために生徒や学校や地域の実態を踏まえて
編成され、「教科」「特別活動」「道徳」「総合学習」
の四領域で構成されます。「特別活動」の内容は「学
級活動」「生徒会活動」「学校行事」で、「部活動」
は含まれません。それでも部活動が行われるのは、
各校の一年間の教育内容を定める「学校経営計画」
に位置付けがあるからです。計画に基づき校長が
教職員に分掌する校務の項目に「部活動の実施」

があり、校内人事に則り部活動顧問が割り当てら
れます。部活動は教育課程外の位置づけながら「学
校教育の一環」として実施され、文科省もこのよ
うな考え方を否定していません。

私は現在、中学一年生を担当し、剣道部を担当
しています。一般的な教員としての業務は、教科
指導に関すること、学級担任実務のほか、校務分
掌の業務などもあります。部活動の顧問は現在
は複数で担当するよう配慮されていますが、主顧問
になると、部活動年間指導計画や月別練習計画の
作成、各種大会申込み、大会案内の保護者向け文
書作成、公用車借用申請など、業務量は増加します。

◇ 部活動の意義と問題

部活動は、異学年との交流を通して学校の授業
や行事では得られない経験を積むことができ、ま
た、多くの仲間と継続した活動を通して達成感や
社会性の育成などの効果も期待されます。部活動
には子どもへの適切な指導や支援を通して、個性
を伸長し、一人ひとりの自己実現を図る効果や意
義がある半面、次に掲げる問題もあります。

△ 時間的な負担▽

部活動関連業務は教職員の本来業務を圧迫する
ことがあります。中学校は教科担任制のため授業
のない時間もあり、その時間は教科指導や学級経
営に関わる事務や校務分掌の業務などに充てます
が、部活動に関わる事務作業や連絡等も行わな
ければなりません。

放課後が部活動の時間ですが、事故や子ども同
士のトラブルを防ぐため活動場所に教職員がいる
ことになっており、夕方まで続く部活動の時間は
本来業務を一時中断しなければなりません。土日
には大会の引率などもあり、休日なしの場合もあ
ります。顧問によっては多くの時間が部活動に費
やされるため、本来業務や家庭生活が制限され、
疲労の蓄積から心身に支障をきたす場合もありま
す。私もかつて在籍した学校では、平日は一六〇
一九時、土日は練習試合や大会などで早朝から夕
刻まで活動が行われ、思考力や判断力が低下して
いく状況が続きました。

△ 労働法制上の問題▽

学校で働く教職員は、昼には給食指導などがあ
り、勤務場所を離れて休憩を取ることができない
ため、多くの学校では勤務終了の一時前前から
四五分間の休憩時間が始まります。この休憩時間
が始まる時間が部活動の開始時間になります。顧
問は休憩時間を行使せず指導にあたります。また、
部活動は教職員の勤務時間を超えて実施されるの
で時間外労働になります。ここで文科省の示す
「教育課程外の教育活動」の考え方が効力を発揮し、
時間外手当支給の対象にはならないのです。

そもそも教職員には時間外手当や休日出勤手当は支給できないよう法律で定められ、その代わり、「生徒の実習、学校行事、職員会議、非常災害等やむを得ない業務など」のために月に約八時間程度の時間外勤務をしたと想定した「教職調整額」が支給されます。これも平日の勤務時間を超えた部活動は支給対象ではありません。部活顧問は、休憩時間も取れず、外堀を埋められた状態で、部活動という自主的な活動をしなければならぬのです。一方、各種大会への参加など土日の活動には、一日四時間以上の実施で特殊勤務手当（部活動指導手当）が支給されます。その手当は何時間の活動でも同じ額で、北海道の最低賃金に満たない額です。部活動は何時間活動しても労働の対価としての補償はありません。

△未経験のなかでの指導▽

教員は教科の免許状があり、専門的な知識・教養を土台に教科指導を行います。部活動の顧問は、学校が設置している部活動の種別によって、専門的な知識や技能がなくても引き受けざるを得ません。

私は高校・大学とラグビー部に所属しましたが、初めて担当したのは野球部でした。部員・保護者の期待は、専門的な指導と強いチーム作りでした。指導の不安は計り知れず、講習会に参加するなどして練習方法や戦術などを学びました。現在も全く経験のない剣道部の顧問をしています。赴任時は指導に大きな戸惑いを覚えました。町内の剣道連盟や外部の指導者からの温かい支援、子どもたちの直向きで謙虚な姿勢に救われました。

私の場合は幸運にも身近に多くの支援者がいましたが、中学校の部活顧問の六〇％は経験のない部を指導しています。素人が指導者となり、子どもたちに技術や技能を教えていくのはかなりの負担になります。未経験者でも期待に応えようとすると、多くの時間を指導の研究・準備に充てることになり、このことが、教科指導や子どもと接する時間を奪うことにならないか危惧しています。

◇ 部活動問題への対応

「社会教育への移行」「外部指導者・地域の人材活用」など、教職員の負担を減らす対策が考えられています。しかし、中学校の教育活動に大きく根ざしてしまつた現在の体制を変えていくにはかなりのハードルがあります。そこで二点に絞つて問題への対応を考えてみました。

一点目は「時間的な負担」を取り除くことです。部活動顧問は校長より委任されますが、部の運営はほぼ顧問に任されています。現在顧問をしている剣道部では、土曜日の活動は午前中のみ、大会のない日曜・祝祭日は基本的に休み。後期は平日にも一日の休部日を設定し、少なくとも週二回の部活動のない日をつくっています。年度当初に部員や保護者会でも説明し、日曜日は家族と過ごす日に、平日の休みは学習の時間に充てるよう伝え、生徒・保護者、地域の方々も理解をいただいているようです。また、大会参加も精選し、遠方の大会への参加などは見直しを図つてきました。これらは教職員の時間的な余裕を生むだけでなく、部員の休養や家族で過ごす時間の確保、各

種大会に選手の移動を行う保護者の負担軽減にも繋がっています。当事者間で十分な説明と納得があれば、「時間的な負担」をわずかでも解消できると考えます。

二点目は教職員の意識改革です。部活動を通して子どもたちの努力や成果を認めていくことには意義があると思いますが、教職員は本来、教科指導や学級活動などを通して一人ひとりの人格完成を促していくものです。部活動に過度な教育的効果を求めるのではなく、本務を実践するなかで子どもたちを育んでいくことに意識をシフトしていくことが大切だと思います。

本稿では教職員の視点から部活動の問題を考えましたが、子どもたちの側にも「全員部活制」「長時間にわたる部活動」「部活に関わる経費」「指導者の体罰」など様々な問題があります。

子どもは社会全体で育てるとはいうものの、学校教育への期待も大きくなっています。教育労働者でもある教職員は、自らの働き方を見つめ直し、心と身体の健康を保つことで、子どもたちにより多くのことを還元できると思います。

富山智裕（とみやま ともひろ）

町立月形中学校社会科教員。野球部の顧問を長く担当し、現在は剣道部顧問を担当している。